

平成30年度 第1回長井市振興審議会 議事録

開催日時：平成30年6月15日（金） 15時00分～17時15分

開催場所：保健センター 研修室

出席者：34名（委員17名、事務局17名）

■振興審議会委員 加藤弘二委員、寒河江忠委員、加藤眞佐夫委員、大山勲委員、蒲生直樹委員、梅津壮一郎委員、神田忠正委員、菊地とく委員、小幡知之委員、北川忠明委員、勝見英一朗委員、齋藤道郎委員、梅津雄治委員、小林美和子委員、梅村律子委員、平吹登委員、長沼真知子委員
（出席17名、欠席1名）

■オブザーバー 内谷重治市長

■事務局 遠藤健司副市長 泡渕栄人地方創生戦略監、齋藤環樹総務参事、佐野安広厚生参事、谷澤秀一産業参事、青木邦博建設参事、伊藤亮一会計管理者、竹田利弘地方創生参事、川村直人教育参事、小関浩幸総務課長、鈴木嗣郎財政課長、新野弘明地域づくり推進課長、
総合政策課 加藤潤子総合戦略主幹、今野透総合戦略室係長、平宗正主任、安部惇士主任、齋藤晋主事

傍聴者：1名

【次第】

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命（新任委員）
- 3 会長選出
- 4 あいさつ
- 5 諮 問
- 6 協 議
 - （1）今年度の振興審議会の進め方について
 - ①振興審議会について（資料1）
 - ②今後のスケジュールについて（資料2）
 - （2）第五次総合計画 前期基本計画について
 - ①前期基本計画の成果について（資料3）
 - （3）後期基本計画について
 - ①後期基本計画の策定について（資料4）
- 7 その他
- 8 閉 会

【議事録】

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命（新任委員）

市長から新任委員10名へ委嘱状を交付した。
- 3 会長選出

委員より、第五次総合計画の策定から会長として携わっている北川委員を推薦するとの発言があった。全委員に諮ったところ、拍手をもって承認されたため、北川委員を会長に選出すること

となった。

4 あいさつ

○北川忠明 振興審議会会長

ただいま会長を拝命いたしました北川でございます。(山形大学)人文社会学部の教授をしております。ついこの間のような感覚ですが、平成25年に第五次総合計画を内容市長に答申させていただきました。その際は熱心にご審議いただきました。委員の方、事務局の方には、これからの長井市を「みんながしあわせに暮らせるまち」にするんだということで本当にご尽力いただきましてありがとうございます。あれからもう5年近く経つわけでございますけれども、先日、事前に送付いただいた資料を拝読しながら、この5年間、総合計画を着実に精力的に進められていたということが手に取るようにわかりました。

その間に、大きく我々を取り巻く環境、国際的な環境が変わってきました。特に、トランプ大統領の誕生以来、中東やヨーロッパの方でも変わってきております。東アジアにつきましては、米朝会談が行われまして、緊張緩和の方向に向けて進みつつあるのだろうという期待感があります。

また、ここ4、5年見ておきますと、テクノロジーの進歩には物凄いものがあります。第4次産業革命といわれていますけれども、人工知能、ロボット化がずいぶん進んでいます。この間テレビで見ましたが、小学3年生から始まる英語教育では、人手不足のため、ロボットを使って英語教育を進めているということもあります。銀行、金融機関レベルでもAIの導入はどんどん進んでおり、日常生活でも同様だと思いますが、そのような流れは、決して悲観すべきことではないと思います。

ただ、相変わらず人口問題、人口減少は続いていて、なかなか改善が見られないような状況であります。そのためにも、地方自治体は総合計画を作って、皆がしあわせに暮らせるまちを作っていくということで、環境の変化に対応しながら着実に、これまでの積み重ねや伝統を守りながら、一步一步進めていくということが大事なのではないかと思います。これで前期基本計画の5年間が終了する年になるのですが、後期の基本計画策定に向けましてもご尽力いただきたいと思いますので、何卒よろしくお願い致します。

○内容重治 市長

本日は、公私とも極めてご多忙の中、第1回の長井市振興審議会にご出席頂き誠にありがとうございます。委員の皆様には、日頃より、長井市の行政運営にご指導ご鞭撻を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。今年初めての振興審議会ということで、先ほどご委嘱申し上げた皆様には、快くお引き受けいただき、重ねて厚くお礼を申し上げます。また、北川先生におかれましては、引き続き会長を務めていただくということで、感謝申し上げます。

長井市振興審議会というのは、長井市における最も重い審議会でございます。すなわち、10年にわたる中長期の長井市の行政運営に係る基本計画、また、それらをしっかりと検証しながら、皆様から長井市の行政運営についてご指導ご助言を賜るといった審議会でございます。皆様には、ぜひ引き続きよろしくお願いしたいと思います。

平成26年度から第五次総合計画がスタートしましたので、今年度はちょうど5年目にあたるということで、前期計画が終了し、来年度からは後期の基本計画に入るということで、その策定期、折り返しの時期を迎えているわけでありまして。この後私の方から、簡単にお話をさせていただきますが、長井市を取り巻く状況は、私たちに限ったことではありませんが、超高齢化、青年層の流出に伴いまして、人口減少がどんどん加速している状況でございます。加えて、長井市は、昭和40年代、50年代に大部分の公共施設整備を行っております。ただ、平成に入りましてから、それらの必要な大規模改修等々ができなかったということで、他の市町村は、築40年以上の公共施設が約3割程度だと言われておりますが、長井市は築40年以上の建物が現在の段階で7割、あと10年もいたしますと9割が該当します。約700近い公共施設整備がありますが、これらの課題は長井市にとって重いものだと思います。一昨年、整備計画として10年計画を立て、議会にお示ししながら、市民にもお知らせして、今年で3年目に入っております。そのため今年は、市内42地区でタウンミーティングを開催しております。4月末から始めて、先日の四ツ谷地区で10か所目ですけれども、今日はそちらで使っている資料を元に、簡単に第五次総合計画と、平成27年度に地方創生の関係した国の施策を受けるべく策定いたしましたまち・ひと・しごと創生総合戦略のお話をさせていただいて、ぜひ第五次総合計画の後期基本計画に向けて、皆様には私の首長としての考え方をお聞きいただきなが

らご指導ご助言を賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以下、タウンミーティング資料に基づき、前期基本計画期間の実績について説明。

5 諮 問

内容市長から北川会長に対し、長井市第五次総合計画 後期基本計画の策定について諮問が行われた。

6 協 議 [座長＝北川会長]

(会長)

これから、次第に従ってご協議いただきますが、今日のメインは、前期基本計画の5年間の取組を振り返っていただいて委員の方々に忌憚のないご意見をいただきたいというのと、後期基本計画の策定に向けて課題を洗い出したいという点です。この5年間にはいろいろな変化もございましたので、そういった点も踏まえて委員の方々には課題を挙げていただきたいと思います。

(1) 今年度の振興審議会の進め方について

①振興審議会について(資料1)

②今後のスケジュールについて(資料2)

資料1・2に基づき、事務局から説明。

(会長)

ご質問、ご意見がございましたら遠慮なくご発言ください。

(委員)

前期基本計画を策定する際には、4つの分科会を設置していたと思います。例えば9月の第2回目の振興審議会には、3つの重点戦略単位などの分科会で討議した方が、全体会でやるよりもきめ細かくできるのではないかなと思うのですがどうでしょうか。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。第五次総合計画は基本構想も含むため10年間という期間について検討いただきました。後期基本計画の策定にあたっては、10年間のなかで大きな枠組みはあまり変えないでいきたいと思っています。前は10年間という期間で考える必要があったため分科会まで設けさせていただきましたが、今回は5年間の基本計画のみであり、基本的なスキームは変えないものと考えているため、分科会の設置は考えていない状況でございます。

(会長)

いかがでしょうか。第五次総合計画の10年間の計画を作成するときには、緻密な協議を行ったうえで前期基本計画を作ったということでした。

(委員)

前期が終わる今年で一旦PDCAサイクルをやると思うので、後期についてはどういうところが問題なのかということを討議しないときめ細かいところまで出来ないと私は思うのですがどうでしょうか。全体会だけだと散漫になるのかなと。

(会長)

今日予定しているのが、この5年間の踏まえた検討でして、それを踏まえて後期の課題の洗い出しをまずやりましょうということです。そこである程度方向性が出ていれば事務局の方で原案を作っていただくということで進めていけるんじゃないかと私は思っているのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

後ほど、資料1の方でもご説明申し上げますが、委員の方には毎年行政評価をいただいております。毎年PDCAを進めさせていただいております。また、各課の方で、社会情勢の変化等を分析し、後期の基本計画における課題等の洗い出しを内部では進めているところですが、新たな課題などを委員にご指摘いただきたいということで計画しているところでございます。

(会長)

今の事務局からのお話のとおり、毎年の進捗管理を振興審議会で行ってまいりまして、PDCAサイクルを回してきたということがあります。

(委員)

総合計画策定のときは、考え方とかビジョンとか、そういったレベルの話だったかと思います。前期と後期の基本計画は、事務事業にわたっての話が中心になってくるものですから、そのレベルになってくると分科会形式で話し合うということではなくて、実際の実務的な話や事務局の考え方を聞きながら意見を出すというやり方になるのかなと感じますので、事務局のご提案のような形の進め方がよろしいかなと感じます。

(会長)

貴重なご意見ありがとうございました。よろしいでしょうか。(一同、首肯)
それでは提案どおり進めさせていただくということでよろしくをお願いします。

(2) 第五次総合計画 前期基本計画について

①前期基本計画の成果について(資料3)

資料3に基づき、事務局から説明。

(会長)

只今の成果についての説明ですがいかがでしょうか。委員の皆様からご意見をいただければと思います。

(委員)

資料3 9ページの成果指標ですが、大変いい取組だと思うんですけども、このうち、例えば2-①で指標が満足度になっています。たぶんアンケートの結果だと思いますが、満足度で評価しているところが4か所あります。この満足度が評価指標として適切なのかということについてちょっと疑問に感じます。本当にやりたかったことがどれだけできたのかが満足度からは見えてこないです。あくまでも自分としては満足したかどうかの指標ですので、この辺は今後考えていく必要があるのではないかなというのが一つです。

それから、13ページの年代別の社会増減について、20歳代のところをピークに減少しているのですが、その後は増加になっています。これは今年一年だけの話ではなくて毎年こんな形かなと思うのですが、一回減少して増加しているということは戻っているということです。その戻ってきているという理由について、どのように把握されているかお聞きしたいです。

(事務局)

満足度の指標について、私どもでPDCAサイクルを回しているわけですが、もっと適切な指標があるのではないかという項目が満足度やその他にも見られました。後期基本計画を作る際には、見直しが必要な点ですので委員の皆様にもお話しいただければと考えております。

年代別の社会増減については、そこの調査までは至っておりません。例えば大学等で外に出られた方が就職等で戻ってこられるんだろうという推測の域は出ないところがございますので、今後はこういった形で分析できるかも含めて、調査方法も検討したいと思います。

(委員)

人口減を抑えるうえで非常に重要な観点かと思います。ぜひ捉えていただいて、長井市の良さを若い人にどのように訴えていくかということにも繋がっていくかと思いますので、ご検討お願いしたいと思います。

(委員)

生涯学習分野の指標について、当初値がかなり低く設定してあるんですが、どのように設定されたのかお聞きしたいです。

(事務局)

生涯学習分野の満足度についてですが、我々で市民アンケート調査を実施しております。こちらの当初値の設定というのは、平成24年度のアンケートの結果の数値でございます。アンケートに答えた人の中で「生涯学習の機会に満足している」と答えた人が31.6%だったとご理解いただければと思います。

(会長)

いかがでしょうか。私は、テレビ、ニュース、新聞で長井市の取組の報道を見聞きして、エネルギーにやっていますすごいなと思っております。確かに成果指標の設定というのは、主観的な満足度といったアンケート結果も非常に大事な要素ですが、委員からのご指摘がありましたように、成果指標としてはちょっとというところではあります。さらに適切なものがあればと思います。

(委員)

アンケート調査というのは、市民の何%くらいが集まっているのですか。こういった形でアンケートをなさったのか、どれくらいの数で数値を出しているのかと思ったのですが。

(事務局)

アンケートにつきましては、年齢別には構成比を考えておりますが、現在は無作為に1000人の方にアンケートをお送りさせていただいております。なぜ1000人かと申しますと、統計学的に、人口3万人弱の長井市の場合は、1000人の方にアンケートを出して、平均的な30～40%の回答があれば、95%の確率で正確だと言われています。市民の方全員にアンケートを出すというのは負担になりますので、統計的な問題で、年齢層別に無作為に送らせていただいております。回答率につきましては、全国の大都市では30%とのことです。長井市の場合は40～50%という非常に高い率で回答をいただいております。

(委員)

9ページ 4-③の市内で買い物をする人の割合ということで現状値が73%とありますが、本当でしょうか。食料品に限って言えばこのような数値が出てくると思いますが、ファッションであるとか値段が張るものであるとかというのは、相当合わない数値であると思うのですが。

(事務局)

この数値につきましては、国、県の調査のデータを基にしております。買い物動向調査だったかと思いますが、今調べておりますので、わかり次第回答させていただきます。

(委員)

9ページ 4-④の交流人口に関する統計ですが、平成29年4月に観光交流センター道の駅がオープンしましたが、こちらとの関わりや今後の見通しについてお話しいただけるでしょうか。

(事務局)

こちらにつきましては、市の商工観光課の方で統計データを出してございまして、各主要施設、あやめ公園、つつじ公園、久保桜、はぎ苑等の入場者数の合計値を市の方で出しております。このデータを基に現状値の66万人を出してございます。こちらは28年のデータでございまし

て、29年のデータはまだ出てございません。ですので、平成29年4月にオープンした道の駅の効果につきましては、まだデータが無いのでお答えできないのですがご了承いただければと思います。

(委員)

アンケートについてお伺いしたいのですが、文化財保護・活用に関する満足度というのは、質問の文章はどのようなになっているのですか。アンケートの中身がよくわからないのでお聞きしたいです。

(事務局)

アンケートの中身については、満足度と重要度に分かれてございます。満足であれば5、やや満足であれば4、やや不満であれば3、不満であれば2、わからないが1というような、あてはまる数値に丸を付けていくという形式になっております。それで、やや満足と満足と答えた人のデータを全体で割り返したのがこの割合になってございます。

(委員)

質問の仕方はどうなっているのでしょうか。

(事務局)

質問については、施策分野がありまして、ここでいえば生涯学習、文化財保護、芸術文化とそれぞれ施策ごとに丸をつけていただく形式になってございます。

(委員)

例えば「文化財保護・活用が満足に思いますか。」といった文章になっているのでしょうか。

(事務局)

そのような形にはなっていないくて、表に施策分野が羅列されていて、満足度と重要度が並んでいるというような形式なのですが。

(委員)

つまり文化財保護・活用の文化財が何かというところまでは無いということですか。

(事務局)

そこまでの記載はございません。

※正しくは、「遺跡や歴史的建物等を適切に保存・活用しているか」という文章になっている。

(事務局)

先ほどの買い物動向につきましては、県から商工会議所に委託されており、長井市については長井商工会議所が調査しております。全数ではなく、一部の方に調査を行っている形になっていると伺っております。内容につきましては、食糧品などの最寄り品と衣類などの買回り品のそれぞれがどこで買われているかを調査しておりまして、今回9ページに記載している市内で買い物をする人の割合につきましては、最寄り品、買回り品の両方を合わせたものになっているということです。

(委員)

大変細かいことなのですが、資料2の18ページの高齢者福祉に関するところで大変いい取組をされているなと思ったのですが、介護予防事業といっても運動機能改善とか栄養改善とかいろいろあります。それをまとめた資料をすべての高齢者に渡すようなことはなさっているのでしょうか。教室を開いただけではなかなか足りないんじゃないかなと。これからどんどん高齢者が増えるにあたって、すべての高齢者に知らせることが大事なんじゃないかなと思ったので、そのあたりをお聞きしたいと思います。

(事務局)

例えば介護予防教室の一覧を市報に掲載したり、ガイドブックを配布したりしています。そのほかに、地域包括支援センターにおいていただければ、いろいろご案内しますということ、主に市報への掲載になっていますけれども、いろんなところで周知させていただいているところです。

(委員)

やはり、もっと大きな字で、最低これだけはやってほしいということをまとめて、すべての高齢者に渡してほしいなと思います。そういったことがこれから大事なんじゃないかなと思います。

(委員)

10ページの市ホームページの情報掲載件数について、29年に2,638件が掲載されたというのは、掲載するのは市がやったということですか。それとも市民の方がやっているということですか。

(事務局)

市のホームページにつきましては、行政の情報を載せているものでございまして、市の担当の方で上げさせていただいているところでございます。

(委員)

それだけ情報量が多くなったということですか。当初に比べて29年が情報量が多くなったというのがわからないのですが。どういう意味の目標なのかなと。

(事務局)

お答えいたします。当初の値が1,237件ということで、ホームページをもっと見ていただくと思って2,000件という数値を設定いたしました。昔は、例えば広報ながいなどで見ていただく人が多かったんですけども、今は若い人を中心にほぼインターネット利用ですので、市の方でもできる限り、紙ベースの情報もホームページに出すということにしているため、情報掲載件数はどんどん増えていくということになっております。

(委員)

その背景はわかります。市で防災ラジオの無料配布（貸出し）をしましたが、市中心部は半分程度しか希望がありませんでした。郡部の方は75%ほどあるんですけども。理由を聞いたところ、「スマートフォンで自分は情報を得るから防災ラジオは無料でも要らない」と言う人がいました。なので、ホームページの情報件数が増えているというのはそういうこともあるのかなと感じたところです。

(委員)

10ページ7-①の交流・定住促進分野について、空き家バンク利用移住件数が成果指標になっているのですが、これは空き家バンクを利用することが目的になっているからこの数値なのか、他の空き家バンクを利用しないで移住・定住される数値もあると思うんですけども、あえてこれが指標となっている理由について教えてください。

(事務局)

空き家バンクに関しましては、準備が遅れまして、今年の3月にやっと整備できたところでございます。現時点では2件の空き家情報が上がっています。

(委員)

空き家バンクを利用することが目的となっているということなのか、移住・定住そのものを増やすのであれば、もっと別の指標でもよろしいのではと思うところなのですが。

(事務局)

移住・定住を増やす対策として空き家バンクという方法を考えておりましたので、指標としては空き家バンクからの移住定住として設定としておりましたが、指標の見直しをかけたいと思います。

(会長)

今のご意見は委員のご意見と重なっていて、移住した方の動機とかに関わってくる話かと思えます。

それでこれまでの取組とその成果についてご意見いただきましたが、これを踏まえて、いただいたご意見の中には後期の課題についてかかわる部分もありましたので、次に(3)の後期基本計画についてご審議いただきたいのですがよろしいでしょうか。(一同首肯)

(3) 後期基本計画について

①後期基本計画の策定について(資料4)

資料4に基づき、事務局から説明。

(会長)

事務局の説明に基づいて、後期基本計画の策定にあたって課題を洗い出していただければと思います。やはり課題を正確に知るといえるのが必要だと思いますので、お気づきの点ありましたらご意見いただければと思います。

(委員)

ひとつのところで課題だなと感じているところがあります。一つが、工業とか土木とか建設とかの就職者が少ないところです。なかなか地元から取れないという声が一般的なわけです。長井工業高校の学科再編もあるわけですが、就職者をどうしていくのか。将来にわたってどう確保していくのか。学校の再編等はいずれ進んでいくわけで、その先を見越したうえで、地元としてはどういう学科なりコースなりが必要なのかを、長い目で県に訴えていく必要があるのかなと感じておりました。それから関連して、これから仕事の高度化が進んでいく中で、大卒は長井市の会社になかなか来てくれないという声をよく聞きますが、大学への働きかけとか、資格取得を市として支援するとか、何らかの対策が必要ではないかなと感じております。そのような部分に対して、ぜひ後期では計画していただきたいと思います。

それからもう一つ、小さいことなんですが、先ほど他の委員の方から出た交流・定住促進分野について、今日の資料を見ると、ふるさと長井会が核になっていくのではないかと考えています。そのふるさと長井会については資料4の後期基本計画で対応すべき主な課題には入っていないように思えたのですが、これからの定住移住、観光交流の促進という点では、ふるさと長井会メンバーの拡大とか、そこを通したPRとかをやっていって十分効果が期待できるのではないかと感じました。以上、2点申し上げます。

(市長)

貴重なご意見ありがとうございます。私どもは、ものづくり人材育成推進協議会を昨年立ち上げまして、特に長井は製造業の町でありますので製造業で求められる人材、特に長井工業高校について考えてきました。定員割れが4、5年続いておまして、これをなんとか定数を超えるような応募があるように、小学生中学生そして保護者の理解度を高めるための啓蒙を行っていろいろな活動をしております。

例えば、29年度の4月1日の入学生は3学科平均して志願倍率が0.5前後になっています。それをたった半年ほど活動しただけで、機械システムが0.9、電気システムが1.0を超えました。こういったことを始めて、これを長井市だけではなくて隣の飯豊とか川西、白鷹、小国とかで声をかけて、そういう人材をまずは長井工業に来てもらいたい。

また、長井工業も4割くらいは進学でして、ずいぶん山形大学や千葉大学などに推薦で入学できるんですね。むしろ、実業高校から大学に推薦で行った場合は長井市に戻ってくる率が高いで

す。一方、土木については、高校でいうと、置賜では米沢工業高校しかございません。長井工業には土木は無くなってしまったんですが、県が山形県産業技術短大に土木エンジニア科を作っていますので、我々も応援していこうと思っています。

加えて、長井工業高校には、31年度の県への重要事業要望で専攻科というのを要望しています。私どもとしては、地域の企業と密着した長井工業高校だったら可能性があるだろうということで、岩手県北上の黒沢尻工業高校の専攻科が成功していますので、それらを参考にやっていきたい。

あとは、今、いわゆる大学改革の中で、首都圏では定員増は無理ですし、新しい学科は作れない、新しい大学は認めないことになっていますので、地方に専門大学、専門学校や短大も含めて今チャンスでございますので、私どもも大学誘致を進めていきたいということで期待感を持っております。

なお、長井市内の大卒人材の採用を増やそうということで、3年前から取り組んでいるのですが、30年度は非常に成果がありまして、今年度で38名。そういった施策をしているんですが、これを後期基本計画の中にどういうふうに反映するかについてはぜひ検討していただきたいと思っています。

(委員)

観光振興分野というところに、道の駅のことが書いてございます。道の駅ができて非常に期待されるわけなんですけど、市内の人たちが繰り返し足を運べるような工夫ができないかと思います。外部からの交流人口も必要ですけど、一回行ったからいいやという市民の声が割合多いように思いますので、せっかくのものですのでもっと繁栄するように、効果が上がるように後期基本計画にも一言盛り込みたいと思います。

もう一点ですが、13ページ基本目標2に学校教育分野がございまして。他の職種の人もそうですが、今、学校の先生方もだいぶ新旧交代が激しくなっております。そういうわけで、ここにも書いてある、問題を抱える児童生徒への対応はもちろん緊急の問題としてたくさんあることは伺っておりますが、先生方から聞きましたら、若いからって授業が下手ってわけじゃなくて素晴らしい先生の授業を見たという声や、これが授業かというような、いろいろな方がいらっしゃるようで、そういうところへの支援や、そして学力が維持、向上できるようにぜひしていきたいという気持ちでございまして。

(市長)

先ほど委員のほうからいただいたふるさと長井会を通しての移住定住とか長井の紹介とかそういったところはぜひ盛り込んでいきたいと思っています。

今、委員からいただいた件でございまして、まず一つが観光振興分野ということでございまして。道の駅の機能、こちらはハードでございまして、問題はソフトでございまして、私どもは、やまがた長井観光局という旅行会社を作りまして市外から長井に観光交流に来ていただくお客様を、具体的な営業、広報活動を行って増やそうとしております。先ほど66万人とかアバウトな数字は出ているのですが、観光局の方では29年度で約1.1万人増やしました。そのお客さんはただ来てもらったんじゃなくて、長井のどこかで食事をとっている、例えばあやめ公園に入園料を払って入ってもらっている、山形鉄道で運賃を払っている、そういったお金を落としたというカウントで行っています。ただ、これは長井だけだと難しいものですから、今後は、南陽、白鷹、飯豊の2市2町で広域のDMOを作って旅行商品を充実させようとしています。

そして、リピーターになるには、長井市はもちろんですが、外から来た人が地元の人と様々な関わりが持てるような、ある程度滞在してふれあいやおもてなしをすることによって、あるいは何か長井の魅力を感じるによってリピーターになるような商品を開発していきたい。

なお、日本国内の観光客は年々減っておりまして、インバウンドで海外の旅行客の皆さんに来てもらえるような商品開発する、海外の人が来ると日本人も来るとというのが今の傾向なんですね。どうせ長井のあやめなんてつまらない、一回行ったからいいとなっていて、海外の人が集まれば、なんだろう、何かあるのかなということでもう一回来るということでありまして、インバウンドの取組が非常に重要だと思っています。なお、旅館業法も変わりまして、民泊などもかなりしやすくなっていますので、長井にもゲストハウスとかの動きもありますので、そういったところも含めて盛り込んでまいりたいと思います。

もう一点の学校教育の分野については、教師の皆様の環境整備、もう少し研修を増やすといったところで、教育委員会とも話をしながら盛り込んでいきたいと思っています。一方で、脳トレで有名な東北大学の川島先生と、100マス計算と音読で成果を上げている陰山先生を顧問に昨年度なっただきまして、いろいろ進めております。具体的には子どもの頃から地頭を良くする、脳の動きを活性化する、そして同時に学力が向上するような取組を進めております。これらについて、特に文部科学省から私どもの方にシティマネージャーがおります。これらの新たな取組を後期にもさらに充実させるような方針で記述していきたいと思っています。

(委員)

統計を見ると、平成28年に長井市で生まれた子どもの数が160名、西置賜全体でも317名。平成29年度に長井市で生まれた子どもの数は若干増えて178名、だけでも西置賜全体では301名でしかないという状況があるわけです。そうすると、公共施設整備事業のなかで、南中と北中の改築工事が入ってきているわけですが、これを終わって5、6年すると、全体で1学年160名くらいしかいないという状況が生まれるわけです。そういうことを見ながら改築工事をしていくのか、あるいは統合せざるを得ないという状況が生まれてくるのか、その辺をもっと議論をしていかないと、せっかく金をかけて直したのに不要になったということにならないようにしていかなくちゃいけないのではないのでしょうか。例えば致芳小学校でもかなり教室が空いている状況があります。あれだって、将来の何年かを見れば減るのがわかるはずだと思います。小学校については小規模でも残すというのは一つの形式だと思いますし、いいんじゃないかと思うんですけども、ただ一方、中学校の場合、1学年合わせても160人くらいしかいない状況のなかで、果たして2つはどうなのかという気もします。工事が終わった段階で5、6年もすればそういう状況が出てくる。そのことも頭に入れながらやっていかなければいけないと思いますので、よろしくお願いします。

(市長)

貴重なご意見ありがとうございます。まずは、第五次総合計画の後期基本計画の中では、引き続き今の小学校6校体制、中学校2校体制は続けていくということを教育委員会の方とは合意の上で進めていますので、このまま堅持してまいりたいと思います。

なお、南北中の大規模改修については、築40年経たないと補助の対象にならないということから、今年38年目で2年後に達しますので、その時点でどうするかということをもう一度議論いたします。

まず一つは、今2クラス、3クラスということで減っておりますが、その子どもたちが入れるような体育館と校舎については全面的にやっていく予定であります。

なお、将来的に、生徒数が減って、一つにせざるを得ないといった場合、無駄になるんじゃないかという点については、無駄にならないようにしてまいりたいと考えています。それはなぜかという点、一つにまとめるのか、あるいはどちらかじゃなくて新たに作るかということになるかと思いますが、そのときに空いているところは、それなりに使えるだろうと思っています。むしろ例えば他のまちで、一校に全部集約した例があります。廃校になったところが町場から離れていると活用が難しい。だけど我々のところは町場に隣接しているところですから、むしろ、「利用していない廃校はないか」、「あったらあれができる、これができる」という声がありますので、私どもはコンパクトなまちなものですから、そういった立地を生かせます。

あと一つ、私の希望としては、何とか中高一貫校を作りたい。その場合、県の方では無理ですから、例えば南中と長井高校はすぐそばにありますので、中学校を長井高校の一貫校にできないかとか。これを県に全部お願いするとだめだと言われるんですが、私どもで校舎を用意するのはどうかということなども含めて、一つのチャンスだと思っています。ですからその資源をどういうふうに活かすかというのは、あまり悲観的にならずに、いろいろ考えていくべきだと思いますし、廃校があるんだったら専門学校を作りたいとか、そういう時代ですので、そのところをどういうふうの後期基本計画に載せるのかということは、ご意見をいただきながら進めたいと思いますのでよろしくお願いします。

(委員)

いずれ、統合・再編にも絡む問題でもありますので、事実として押さえながらやってい

かないと思いますので、よろしくお願いします。

(委員)

文化財保護のなかで、長井市の町場景観が重要文化的景観になったんですけど、活用するという視点が大事だと思います。先ほどの文化財の保全・活用に関するアンケートを行っているということもあるので、その視点も重要になってくるんですが、後期基本計画で対応すべき主な課題には挙げられていません。重要文化的景観は単純な文化財じゃなくて、教育の中で子どもたちに理解してもらう、活用してもらうことが地元の理解につながるといいますし、それから観光とか、移住、起業にもつながると思うし、それからまちなみ整備だと居住環境の整備とか、広くいろんな分野につながっていくと思いますので、文化的景観を活用するという視点をぜひ盛り込んでいただきたいと思います。

2点目は、山形工科短期大学校をぜひ地域活性化のなかでお使いいただきたいというかご協力させていただきたいと思いますので、例えば雇用対策分野、長井工業高校との連携とか、職業訓練の分野とか、いろんな連携を考えていきたいと思いますので、検討いただければと思います。

(委員)

一点、要望なんですけれども、資料4の後期基本計画で対応すべき主な課題として観光分野や人口減少の点で抜けていると思ったのが情報発信だと思っております。先ほどから、10代20代の方々がやはり戻ってこないというのが課題の中で、例えば今はインスタグラム。ソーシャルメディアなんですけれども、10代20代の若年層の使用率は約6割を超えていて、30代40代となるとフェイスブックが主流になるんですけれども、それぞれに分けた市の定住に向けた取組であったり、観光に向けた取組であったりを、ツールに分けた情報発信が必要になってくるといいます。今後の課題として、ここを専門家等を通じて増やしていただくのがいいのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございました。他にいらっしゃいますでしょうか。

(委員)

基本目標3のところの土曜らんどへの協力者、指導者の減少というのと、基本目標7の地区によって各地区公民館のコミュニティセンター化の進捗に差があるというのがあるんですけれども、今現在、コミュニティスクールというのを各6地区行っていると思います。そこで放課後子ども教室とか学童とかについて、ばらばらに管理運営をやっているんですね。せっかくコミュニティセンターができたので、コミュニティセンターを核にしたような形で、学校とコミュニティセンター、保護者の三角形を作れるような方策を後期基本計画で検討していただけたらと思います。

(委員)

もう一点、同じコミュニティ分野についてなんですけれども、地区や隣組の存続が危ぶまれるというのは、コミュニティの上では非常に心配しております、コミュニティが非常に弱っているところとも関係しておりましたので、住民の方が、人づくりという話で産業面それから教育面などで住民意識を強く持った市民の育成というのが必要かなと考えているところです。コミュニティ分野については一つの施策となっていますが、先ほど施策間の連携という話もありましたが、横断的な対策として入れていただけないかと思ったところです。

(会長)

地域を支える人材の育成というテーマについて、市長はどのようにお考えでしょうか。

(市長)

中央地区はなかなか浸透していないんですが、他の地域では地域づくり計画というものを作っています。すべての地区のみなさんが参加できるわけではないんですけれども、自分たちの地域の将来は、自分たちで計画を立ててやれることをやっていこうというものです。いわゆる協働というのは、志ある人だけがやるのではなくて、市民みんながそれを理解して支え合うんだという

ことを地域からやっていこうというのが長井のいままでの協働には欠けていた部分だと思います。来年は、中央地区を除いて豊田も伊佐沢もコミュニティセンター化が進むと思います。ただそこからが課題でして、横断的なことなどもやらなきゃいけないですけども、ある程度足並みが揃ったら、もっと浸透させるため、協働の理解、NPOをはじめテーマごとの協働の団体がありますからそういったところの共有を図っていかねければと思っています。

もう一点は、行政レベルでいうと地区長会があるんですが、地区が136あるんですけども、大きいところが500世帯を超えており、小さいところは12世帯です。そういった小さいところは大変になっていまして、隣組も崩壊状況になっています。これを我々行政から再編するのは無理なので、どうするかを考えるということで、今年2年目で地区長の皆様を中心に、地区の再編を身近な課題として、地域で支え合うという面からも進めております。時間はかかりますけれども、そういったことも計画に盛り込んでいくようにしたいと思います。皆様からいろいろなご意見いただきまして大変ありがとうございました。しっかりと反映させていきたいと思っています。

(会長)

ただ、今日は前期計画の成果についてたくさんご意見いただきましたし、後期基本計画の課題整理についても、人材育成という本当に大事なところを含めて、貴重なご意見をいただき、本当に良かったと私は思っております。今日の協議についてはここで一度締めさせていただきますして、今日出たご意見を踏まえて、次回9月の振興審議会で原案をご提案いただいて、またご議論いただくという方向で進めたいと思いますのでよろしくお願いします。

(事務局)

今日の会議後、こんな課題があるということがありましたら、事務局の方までどういう形でも結構ですので、お出しいただけますようよろしくお願いいたします。

(会長)

またお気づきの点等ありましたら事務局の方にお知らせいただきたいということでありました。では本日の協議につきましては以上とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

7 その他

なし

8 閉 会

以上